

ようじえんだより 2017年度7月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目 253 番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

7月主題『気持ちよく』

主題聖句：「天よ、喜び祝え、地よ、喜び踊れ」詩編 96 編 11 節

☆ 0～2歳児：イエスさまを身近に感じる。土、砂、水にふれ遊ぶ。暑さや感染症から守られながら健康に過ごす。

☆ 3～5歳児：友だちや保育者と思いを合わせて、祈る。土、砂、水に親しむ。遊びたい友だちや、やりたいことがはっきりしてきて遊びが続くようになる。体を洗ったり、着替えたり、木陰で休んだりすることを快く感じる。

泥だんご遊びの奥深さ

本格的な夏を迎えるこの時期、子どもたちは泥だんご遊びを楽しんでいます。水がさらさらの砂と混ざったら、ドロドロの泥に変わる。子どもたちにとってはこの上ないフシギな変化です。この泥がまた自分の思いのままに形作ることが出来る。ここから泥だんご作りが始まります。硬さを競うために砂の質や乾燥させることの重要性を学びますし、どれだけ光るかとことん追求していく中で磨き方をマスターします。子どもたちが体験した知恵をふりしぼってホンモノを探して、コツを教えあう姿は、まさに遊び＝学習であると言えます。

この土、砂、水をもちいた遊びは当然汚れを伴います。“洗濯が大変！”お母さんたちの悲鳴が聞こえてきそうです。確かに泥んこ遊びに代表されるような外遊びをした時には手洗いの大切さを伝えることは大変重要です。しかし「清潔」を根拠に、このような幼少期しかできない遊びを制限することはもったいないと思うのです。今しか出来ないこどもの体験学習を大人が尊重する中で、より自由で独創性ある人が育っていくように私には思えるのです。

子どものAKU（悪）をどこまで受容できるか

「こどもの冒険あそび場プレーパーク」を主宰する天野秀昭さんという方は、遊びを通して生きる力を得た子どもはAKUのパワーを持つといいます。それはA(危ない)、K(汚い)、U(うるさい)です。大人にとったらこのAKUはまさに悪！やめて欲しいことです。しかし本来子どもという存在は危ないことをし、清潔に鈍感で、うるさいものです。危ない遊びを全くせず、土や砂がつくことを嫌い、いつも手を洗っていて、静かにしているこどもに果たして生きる力が身についているでしょうか。もちろん個性はあります。しかし私たちがよく心しておかないといけないことは、大人の都合で子どもの生きる力を奪わないこと、すなわち子どものAKUを保障してあげる環境をどこかに用意しておくことです。今の社会は、子どもにとっても大人にとっても決して優しくない社会です。子どもを大らかにほなほな見てくれません。しかし子ども時代に、AKUを発揮できる場所や時があることで、自己受容と他者受容という「愛」を知るきっかけになると信じます。 園長：久保田愛策

年間主題『愛されて育つ』

主題聖句：あなたがたは神に愛されている子どもです
新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章1節